

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的な状況の説明
家計動向関連 (沖縄)	◎	家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・エアコンや冷蔵庫の売上は、省エネ家電買換えキャンペークによる反動減が縮小している。パソコンはメモリ高騰による値上げ報道で売上が2けた伸長している。携帯電話も前年の電気通信事業法の改正で反動増となり売上が伸びている。免税品の売上も伸びている。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・前年や3か月前との比較では、季節要因による差があるものの、今月は正月やギフト需要の取り込みと客単価の上昇により、前年を上回るペースで好調に推移している。
	○	その他専門店〔書籍〕（部長）	販売量の動き	・売上は、前月に続き前年比で微増している。周辺の店舗からも景気が上向いてきたとの話をよく耳にしている。
		その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	来客数の動き	・年末年始の帰省客や国内観光客で来客数は増加している。中国からのインバウンド需要は落ちているとみられるが、今のところ影響はない。ただし、春節の時期が2月に当たるため、来月が来客数減少の不安要素となっている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・街では飲食店が多くなり、小売店が減少している。飲食店と小売店の対比を明確にしないと、景気の判断が難しい。飲食店の需要は高いが、小売店の需要は減少しているとみられる。
		一般小売店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・飲食店は物価高騰で来客数が減少し大変苦戦している。特に、生鮮品を扱う飲食店で苦戦しているようにみられる。
	□	百貨店（経営担当）	来客数の動き	・地元客による年末年始需要は好調であるが、インバウンド需要は計画を下回るとみられる。
		スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・県内の経済状況と同様に大幅な上振れはないものの、消費者の購買意欲は堅調に推移している。中国関係の長期化は懸念材料であるが、春節の数字が出てきていないため判断が難しい。
	□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・購入商品や買上点数などの変化がみられない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・年始は例年通り忙しくしていたが、正月休み明けは来客数が減少している。
	□	乗用車販売店（経理担当）	来客数の動き	・イベントの集客も見込みどおりになるとみている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・初売りの市場環境は非常に厳しく、新車受注は例年の約6割にとどまるとしている。
	□	その他専門店〔陶器〕（製造）	販売量の動き	・客先からの注文頻度が早まった印象を受けるが、大きな変化はみられない。
		観光型ホテル（専務取締役）	単価の動き	・客のホテル内消費額が伸び悩んでおり、計画値に達しないとみている。
	□	観光型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・観光はオフシーズンだが、予約状況は引き続き前年を上回っている。
		旅行代理店（マネージャー）	販売量の動き	・販売量は前年と比べて変わらないが、物価高が続いたことで段々と予約も鈍化してきているため、油断できない状況である。
	□	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売数が伸びていない。注文販売は変わらないが減少しているため、来店者への積極的な案内を行い、販売数を維持している状況である。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数に変化はないとみている。
	□	住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・新築物件の需要が供給を上回っている。また、今後の金利上昇による駆け込み需要の動きも見られる。
		コンビニ（経営企画担当）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。また、地域によっては、中国からのインバウンド減少の影響が出ている。
	▲	その他飲食店〔バー〕（経営者）	来客数の動き	・週末の来客数が減少しており、飲食店の利用が明らかに少なくなっている。

	▲	通信会社（サービス担当）	来客数の動き	・料金見直し需要が一服し、来客数が減少傾向にある。消費者の節約志向が強まっており、先行きも弱含むと判断している。
	▲	住宅販売会社（営業担当）	販売量の動き	・住宅ローン金利の上昇や不動産価格の高騰から、消費者がやや消極的になっている。
	×	一般レストラン（代表者）	来客数の動き	・1月は例年通り客足が減少している。
	×	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・10月の販売室数が前年比18%増加なのに対し、1月は前年比9%減少でマイナスに転じている。
企業動向関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月と変わらず、民間の工事案件の引き合いがある。注文がなくなっても他の案件がある。
	○	輸送業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・前年同月と比べ増収増益である。
	□	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・前回と変わらず、観光関連の土産や飲食は好調だが、小売など一般消費者の購買は悪い。
	□	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・受注した大型工事が完了し、生産と販売共に一段落したため通常体制となる。
	□	輸送業（経営企画室）	受注量や販売量の動き	・時期的な変動はあるものの、例年どおりの受注発注量になっている。
	□	通信業（総務）	それ以外	・観光産業は好調だが、食料品などの高騰で生活消費は節約志向が続いているとみられる。
	□	会計事務所（所長）	それ以外	・物価上昇が続き、賃金上昇が追いついていないとみている。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—
雇用関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・求人案件に対して求職者の動きが鈍い。人手不足感は変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（審査）	求人数の動き	・一定の企業では、最低賃金引上げにより採用コストが見合わないことから、採用への慎重姿勢や求人の出し控えが続いている。そのため、求人数が戻っていないとみている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月比で求人数は減少したが、求人者から人手不足の相談は多い。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・2027年卒向けの求人は多いものの、前年同期に求人を受けていた企業から求人が届かないなど、求人が若干減少している状況である。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・物価高による消費抑制が続いているとみている。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—